

2024 年 1 月 8 日

2023 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科  
課題研究

不妊症看護認定看護師が行う  
不妊治療中の男性への看護支援の現状

Current Nursing Care for Men Being Treated for  
Infertility by Certified Infertility Nurses

22MW005  
岩橋里奈

## 要旨

### I. 目的

不妊治療中の男性への看護支援の現状を明らかにすること。

### II. 方法

質的記述的研究デザインを用いた。研究対象者は、不妊症看護に携わる年数が10年以上の不妊症看護認定看護師で、現在も不妊治療中の夫婦へのケアに携わっている者とした。研究協力の同意を得られた対象者に、①経験年数などの基礎情報、②不妊の原因に関わらず不妊治療を夫婦で行っている男性に対する現場における看護支援の現状と課題、③不妊治療中の男性に実際に行っている具体的な看護支援、④不妊治療中の男性への看護支援で大切にしていることや困難に感じることにについて、約60分間の半構造的面接を行った。Berelsonの内容分析を用いて分析し、カテゴリー化した。尚、本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認（承認番号：23-A022）を受けて行った。

### III. 結果

研究対象者は4名で、そのうち1名は男性看護師であった。4名全員が20年以上不妊症看護に携わっていた。分析の結果、不妊症看護認定看護師は、【基盤となる姿勢】を持ちながら、男性の置かれている環境や身体・心理・社会的側面を理解し、【羞恥心や緊張への配慮】、性や生殖といった【プライバシーに介入する】、医師や夫婦間、社会資源との【橋渡し】、検査や治療を進めていくために必要となる情報提供や夫婦・家族関係の問題へのアドバイスといった【意思決定支援】を行っていた。さらに、看護師に対して教育的介入を行うなど【看護の質向上のための取り組み】を実施していた。一方で、不妊治療中の男性を支援していく上で、【困難感】があるということも明らかとなった。

### IV. 結論

本研究では、不妊治療中の男性への看護支援の現状が明らかになった。不妊治療中の男性に対して、男性の思いや置かれている環境を理解して細かな配慮がされていたこと、家族・夫婦間の問題や性に関することなどプライバシーに介入した支援を行っていたこと、教育的介入を行うことで看護の質向上に努めていたことは、特徴的であった。不妊治療中の男性への支援の課題として、男性が気軽に相談できるような体制づくりと教育的立場を担う不妊症看護認定看護師に求められる役割の2つが示唆された。